

令和3年度 横浜カレッジ 自己評価報告

1. 実施方法

自己評価については、平成25年3月に文部科学省により出された「専修学校における学校評価ガイドライン」に則り実施。 ※別紙: 令和3年度 横浜カレッジ 自己評価表
以下、項目ごとの課題事項、年度トピックについて概要をまとめた。

2. 評価項目の達成及び取り組み状況

2-1. 教育理念・目標

(1) 教育理念・目標

本校は、学校法人岩崎学園の理念である「人材育成を通じた地域社会への貢献」のもと、①感性の向上 ②高度な技術力の習得 ③豊かな人間性の涵養 ④プレゼンテーション能力の育成の4つを教育目標に掲げ、ファッション、美容、ブライダル分野の人材育成に取り組んでいる。

(2) 将来構想へ向けた体制

岩崎学園100周年を見据えて策定された中期事業計画に基づき、学園本部および姉妹校を横断するプロジェクト(広報統括委員・IR推進委員・オンライン教育構築・国家試験対策・基盤教育・教育環境整備等)が活動している。本校からは、若手、中堅教職員がプロジェクトメンバーとして積極的に参加し、新しい教育の立案推進に携わっている。

2-2. 学校運営

(1) 運営方針

理事会での学校運営に関する根幹の決定に基づき、3つの重点実施項目を策定し、教育活動を行った。(参照: 自己評価表 P1)

令和3年度は、従来の校務分掌に新たな「マネジメント運営グループ」を新設し、組織としての力を底上げする活動をスタート。

また、事業計画は、個人の業務計画・目標に落とし込みを行い、期首・中間・期末での振り返りを実施。成果の見える化を基準にグループリーダーと面談を実施し、教職員の育成にも傾注した。

(2) 情報のシステム化と業務の効率化

本学園全体でLMS(Learning Management System)を導入。データの可視化や学生データの管理など業務の効率化が図られた。一方、日々の授業で蓄積される学習履歴などの教育データについて授業内容の見直しなどに繋げていくことが課題である。

(3) 働き方、健康管理

前年度に引き続き、新型コロナ感染拡大防止、学生および教職員の安全と健康を守るために、オンライン授業の活用と、教職員の在宅ワークの推奨を行った。また、本学園に医療系専門学校が2校あることから、新型コロナワクチンの職域接種を3回実施。学生、教職員および家族、近隣企業等へ広くワクチンの接種を行った。

2-3.教育活動

(1)教育課程の編成・実施方針

- ①教育理念・目標を具現化するためアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーをベースに、「学科グランドデザイン」「カリキュラムグランドデザイン」「シラバス」を作成。学科にかかわる常勤・非常勤を含めた教員で共有し、教育内容の明確化と科目横断的な教育効果の向上を図っている。
- ②年 2 回の本校教育分野関連の業界団体・企業等の有識者による「教育課程編成委員会」や、産学連携の取り組みを通して、両グランドデザイン、シラバスの見直しを行い、産業動向や企業ニーズに合わせた教育を推進している。

(2)オンライン授業の推進

LMS であるスタログの導入に加え、基礎学力の向上を図る e-learning 教材(すらら)の導入や学生と教職員のコミュニケーションツール(スラック)などを導入して、オンライン授業を展開。

LMS では、工程ごとの手技動画を作成・公開してマイクロラーニングを取り入れるなどして学生の隙間時間の活用が進んだり、授業後すぐに録画した授業動画を公開することで復習用に活用したりし、検定試験の合格率向上に寄与した。

(3)令和 4 年度に向けた、学科横断的な共通カリキュラムの検討

令和 4 年度の導入をめざし、①学生に分かりやすく、②時代の変化の中でも通用する、③学生と教務双方にとって効率的で運用しやすい等を目的にカリキュラムの再編に着手。

令和 3 年度は学内共通科目として導入する 3 科目「クラスアクティビティ」、「サービストレーニング」、「IT リテラシー講座」のカリキュラムを導入した。これまで、学科ごとに運営していた科目を統一し、本校としての到達度を標準化した。なお、「クラスアクティビティ」においては、学科特性を最大限に活かした主体的、機能的な活動時間に変化している。また、令和 4 年度に向けて、全学科の学生を対象にしたオンデマンド型の資格取得講座を 3 講座「サービス接客検定 2 級講座」「アロマセラピー検定講座」「ネットショップ実務士補検定講座」を計画し、準備を進めた。

(4)産学連携・インターンシップの体系化

前年度に引き続きコロナ禍で対面での活動に制約があったが、継続的に実施できた産学連携やインターンシップも多数あり、学生には実践的な学びの場となった。

産学連携の取り組みの形態は様々だが、企業提示の課題に企画段階から参加し、実社会で商品化される等、実践的な内容の取り組みも定着してきている。また、環境問題やヘッドネーション等、現代の抱える課題や社会貢献につながる取り組みも継続できた。

①企業提示の課題による産学連携

- ・横浜高島屋との連携によるフォーマルウェアの提案や、ファッション売り場のディスプレイ、革小物の商品化に取り組んだ。
- ・YOKOHAMA B-CORSAIRS との連携によるグッズデザイン・商品化
- ・エイベックスのアイドル衣装制作
- ・ウェディング企業との協業によるロケーションフォトプレゼント企画

②現代の抱える課題や社会貢献につながる取り組み

- ・子供たちが主体となって新たな事業を創出する「Polytope Project IWASAKI」への参加
- ・NPO と連携、熊本の震災時に使用されたブルーシートのリサイクル活動への参加
- ・横浜実践看護専門学校と連携、乳癌患者へのヘッドネーションへ協力

(5)教員研修

教職員には、専門性を高めるための研修と、教授法や学生指導に関する研修を実施し、研鑽を積んだ。また、平成 29 年度より導入している教職員の資格取得奨励制度を活用し、令和 3 年度は、延べ 13 名が新しい資格を取得した。

岩崎学園中期事業計画では、発想力豊かな人材の育成が掲げられ、そのための1つとして VTS を取り入れた教育が計画され、ファシリテーター育成のための教員研修がスタートした。

2-4.教育環境

(1)施設・設備

前年度に引き続き、すべての学科で学生にノート PC を貸与。自宅でオンライン授業が受講できる体制を整えている。また、学内に個室型ワークブースを 3 台設置し、就職活動におけるオンライン面接等に活用した。

2-5.学習成果

(1)内部特待生制度

本学園のすべての専門学校に在籍する進級学生を対象に「内部特待生制度」が導入され、令和 3 年度は 10 名の内部特待生を選出した。

内部特待生は、本学園姉妹校の学生が横断的に参加するアイデアソンなどのプログラムに参加し知見を広めるとともに、学校情報の発信に寄与。また、校内で行われた学校行事にも率先して参加し、他の学生の模範となっている。

(2)就職実績

進路・就職に対する支援は、岩崎学園全体の就職情報を統括的に管理する部門と教員が連携し、学生の活動をサポートしている。令和 3 年度も、前年度に引き続きコロナ禍による影響がある中、粘り強く就職活動を実施した。

【令和 3 年度就職実績】

・就職率:96.0%(就職希望者 322 名、就職者 309 名)

(3)学園横断的な学びの場と起業家マインドの醸成

多彩な専門分野を活かして、本学園7つの専門学校の学生が混成チームで取り組むアイデアソンはじめ、起業家支援の専門家によるセミナー等が行われ、本校の学生も積極的に参加し学びの幅を広げることができた。また、令和 3 年度より本学園の教育成果発表会 Icon「IWASAKI IDEA CONVENTION」のエントリー資格が、単体の学校ではなく、姉妹校と組んでいることが条件となり、出場 5 チームのうち下記の 3 チームに本校の学生が参加し、それぞれの専門性を発揮しながら新しい取り組みにチャレンジした。

・小学生をファシリテートしながら企業と連携し、横浜にちなんだ商品企画と販売

本校・情報科学専門学校・横浜デジタルアーツ専門学校・横浜保育福祉専門学校

・アパレル特化型 SDGs フリマアプリについてのアイデア

本校・情報科学専門学校・横浜医療情報専門学校・横浜デジタルアーツ専門学校

・がん患者様のメディカルウィッグづくりへの貢献

本校・横浜実践看護専門学校

(4)資格取得・コンテスト

【資格】

学習の目標としてカリキュラムの中に計画的に資格取得を配置し、専門知識、技術の確実な習得をめざすとともに、合格により達成感を体感し、次のステップへの意欲醸成につなげている。

- ①美容師国家試験合格率 97.0%。全国平均の合格率を上回る成果を得た。
- ②ビューティースタylist科で令和元年度から導入した「ユニバーサルマナー検定」は令和 3 年度も継続して実施。「すべての人に美容サービスを」を目的としたサークル活動が令和 3 年度からスタートするなど、実社会で活かす学びに発展している。
- ③ビューティーコーディネート科では、検定対策の一環として、マイクロラーニングを導入。
日本メイクアップ技術検定 1 級合格率 67.6%
ネイリスト技能検定 2 級合格率 100.0%
JNA ジェルネイル技能検定上級合格率 100.0%
エステティシャンセンター試験合格率 100.0%
AEA 上級認定エステティシャン合格率 100.0%
- ④ブライダル科では、国家検定であるブライダルコーディネート技能検定 3 級の合格率が 100.0%。また、全国の専門学校で初めて 2 級合格者を輩出した。
- ⑤ブライダル科のサービス接客検定準 1 級の合格率が 98.8%。2 年連続で(公社)実務技能検定協会から団体優秀賞並びに個人最優秀賞の表彰を受けた。
- ⑥ファッションライフデザイン学科では、パターンメイキング検定 2 級・3 級の合格率がいずれも 100.0%
- ⑦ファッションビジネス科では、色彩技能パーソナルカラー検定モジュール 1 の合格率が 80.2%

【コンテスト】

コロナ禍の中でも学生の社会的な評価を得る機会として、外部コンテストへの参加を促進。

①ファッション系

- ・第 18 回ビジネスユースコンペティションに入賞。本コンテストのエントリーは 5 年目となり、学生の目標として定着。
 - ーマーケティング賞: ~ 「Chetta チェッタ」あなたを助ける避難用座椅子 ~
 - ーアイデア賞: ~ レインウェア×エコバック ECOat ~

②美容系

- ・TAT ネイルアートコンテスト 2021、ネイルコースの学生がグランプリを受賞。
グランプリの受賞は 2 年連続
- ・ケサランパサラン 2021 フォトコンテストで、メイクコースの学生がグランプリを受賞。

(4)退学者

退学率 10.8%(前年 7.5%)

IT ツールを活用したコミュニケーションなど、学生との面談機会は確保した一方、業界の業績悪化が顕著になり職業の将来性に不安を感じた進路変更、両親の失業やアルバイトができない状況による家計圧迫、精神的な不安からの精神疾患の再発、遠距離通学者が電車に乗れない等、コロナ禍の影響による退学が少なからずあった。令和 4 年度は、アンケートや面談を通じて早期に学生の状況を把握に努め、また、教職員間での情報共有を丁寧に行い、学校全体として、早期対応かつきめ細かい指導を重視し退学率の低減に取り組む。

2-6. 学生支援

(1) 学生相談

状況ごとにクラス担任、学科リーダー、専門のカウンセラーと複数の人間で対応をしている。

(2) 経済的な支援

- ・令和 2 年度より始まった「高等教育就学支援新制度」の対象機関として認定を受け、学費支援策の枠を広げた。
- ・給付型、貸与型と様々な支援策があり(下記参照)、また、利用者も年々増加傾向であるが、それでも経済的な苦勞を抱える学生は少なくない。

【学費支援策利用状況 人数は延数】

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
岩崎学園奨学生制度(貸与型)	11名	9名	9名
日本学生支援機構奨学生(貸与型)	369名	323名	277名
日本学生支援機構奨学生の内、学費分割納入者	186名	202名	145名
日本学生支援機構(給付型)	122名	72名	6名
高等教育の修学支援新制度(授業料等減免)*令和2年度より	120名	72名	-
学生支援緊急給付金	117名	51名	-
岩崎ともみ奨学財団奨学金(給付型)	8名	8名	8名
国の経済的支援のあり方に対する実証研究(学費減免型) (岩崎学園学費減免制度併用)	0名	3名	5名
美容系求人企業奨学金(給付型)	1名	1名	1名

(3) 保護者との連携

前期、後期の成績については、学校生活や就職活動についての「保護者へのお便り」とともに書面にて通知している。また、入学ガイダンスやビューティースタylist科の保護者会、学校行事の様子など、オンラインにて配信を実施した。

(4) 防災体制

激甚災害行動マニュアルを策定し運用。

スラックを活用し、台風・降雪等の荒天時の教務部判断を設けて対応。

2-7. 学生の受け入れ募集

前年度に引き続き、対面とオンラインのオープンキャンパスを併用しながら学生募集活動を展開。令和4年度の入学生は436名(前年:460名)。前年度は、コロナ禍をきっかけに神奈川県外からの入学者数が減少傾向であったが、令和4年度入学生はコロナ禍前の水準に戻りつつある。

2-8. 財務

財務基盤は安定しており、継続的な学校運営に問題ない状況である。

2-9. 法令順守

学校の設置や運営に関する法令は遵守しており、神奈川県での認可を受けている。毎年、学則、カリキュラムの届出と学生数、教職員状況、卒業生状況等の報告を行っている。

個人情報保護については、本学園ホームページで公開している個人情報保護方針に則り行っている。平成25年3月に文部科学省により出された「専修学校における学校評価ガイドライン」に則り、自己評価を実施。ホームページ上で公開するとともに、学校関係者評価委員会を開催し、専門的かつ客観的な意見を聴取した。また、議事録をホームページ上で公開した。

2-10.社会貢献・地域貢献

(1)学校の教育資源や施設を活用した社会・地域貢献

本学園の姉妹校とも連携しながら、地元プロスポーツチームや地域イベントの活動に参加し、日ごろの学習成果を披露しながら地域社会に貢献。今後は、学生主体で立ち上げたサークル活動などを通じて、地域社会の貢献につながる活動の企画・遂行が課題。

医療系専門学校2校を持つ強みを活かし、新型コロナワクチンの職域接種を3回(6月～7月、7月～8月、2月～3月)、対象を、本校の校生、教職員および家族のみならず、近隣企業等へ幅広く実施した。特に1回目、2回目のワクチン接種は、接種券の配布が遅れる中、いち早く実施できたため、学内の感染抑止に役立つことはもちろん、近隣企業はじめ多くの方々から感謝の言葉が寄せられた。

(2)地域に対する公開講座・教育訓練の実施

前年度、コロナ禍で中止となった高校生向け講座「仕事のまなび場(4講座 99名参加)」・「総専協夏季公開講座(2講座 32名参加)」、鎌倉湘南地区高校連携講座「ブライダル関連のキャリア教育 22名参加」などは、感染対策を行いすべて対面にて開催した。

以上